

# “生命を学ぶ”報告書

## 【ねらい】

蚕の飼育では、前年度に蚕蛾が生んだ卵を孵化させて、繭から生糸をとったり、そのまま蚕蛾として成長させ、翌年の為に卵を産ませている。その過程において、生かす繭を選別するなど、生命について考える体験をさせる。また、野菜の栽培は、毎年、土作りと畑作りから行い、水やりなどの世話をする事により、野菜の生長には肥料や水などが必要であることを学ばせたり、収穫して料理をしてみんなで食べることによる食育としての教育活動も行う。これらの活動から自然の不思議さや生命のサイクルを気づかせる。

## 【指導内容】

春	<ul style="list-style-type: none"><li>・前年度、蚕蛾が生んだ卵を孵化させて蚕へと成長させる。 繭となった蚕を、生糸をとる蚕と卵を産ませる蚕とを、園児たちと相談して選別し、茹でた繭から生糸や真綿などをとり、産まれた卵は、翌年まで冷蔵庫で保管し、生命のサイクルを学ぶ。</li><li>・冬眠から覚めたカメやメダカに、餌やりやお散歩などの世話をする。カブト虫やアゲハ蝶などの卵や幼虫の世話をする。</li><li>・園庭の畑やテラスのプランターの土づくりを行い、トマト、きゅうり、ナス、ピーマンなどの野菜の苗を植え、水やりなどの世話をする。</li></ul>
夏	<ul style="list-style-type: none"><li>・カメやメダカの世話をする。</li><li>・カブトムシやアゲハ蝶を成虫まで育てる。</li><li>・春に植えた野菜を収穫し、野菜炒めなどのクッキングを行い、皆で食べる。</li></ul>
秋	<ul style="list-style-type: none"><li>・カメやメダカの世話をする。</li><li>・園庭の畑やテラスのプランターの土づくりを行い、大根、ほうれん草、カブなどの野菜の種をまき、水やりなどの世話をし、生長を観察する。</li></ul>
冬	<ul style="list-style-type: none"><li>・カメが冬眠に入る為、冬眠の仕組みを学ぶ。</li><li>・メダカの世話をする。</li><li>・秋に植えた野菜を収穫し、味噌汁やスープ等のクッキングを行い、皆で食べる。</li></ul>

## 【活動報告】

春	<p>「蚕の世話」 卵から羽化した蚕の幼虫を年長児が中心となりお世話をします。育ち盛りの幼虫達は食欲旺盛。次の日には桑の葉がなくなり、フンも沢山です。見落とさないように幼虫の数を数えながら、綺麗にした幼虫のお部屋に戻し新しい桑の葉をたっぷり入れました。</p> <p>「カブト虫の世話・幼虫の観察」 年長組がカブト虫の土のフンを取り除くお仕事をします。雄と雌の見分け方などを年中さんに教えます。 その他にも春から夏にかけて、毎年ツマグロヒョウモンの幼虫が蛹になり、アゲハ蝶も卵からサナギ、そして蝶へと羽化します。その様子を教師が知らせ一緒に観察すると同時に、パネルでも表示し成長過程に興味を持てるように工夫しています。</p> <p>「土づくりから苗植え」 野菜を育てるための土を作ります。年少さんから年長さんまでみんな一緒に、園庭にブルーシートを敷き、その上に古い土を広げて、枯れた根っこやゴミなどを取り去って、日光干しをしてから、肥料を混ぜ新しい土を作ります。それを園庭の畑やプランターなどに移し、トマト、きゅうり、ナス、ピーマンなどの苗を植えました。</p>	    
夏	<p>カメの世話」 長期休みには「カメ吉」をホームステイして下さるご家庭を募集します。今年度も、預りを希望するご家庭に宿泊しました。名前を呼ぶと、声のする方に首をかしげ、さも言葉がわかるようになりアクションが楽しく、子どもたちも大喜びだったそうでした。</p> <p>「野菜の収穫からクッキング」 沢山の夏野菜を収穫し、みんなでクッキングを行いました。今年は、教師や保護者の方が手伝いながら子どもたちも野菜を切り、教師やお母様方が調理するところを見学しました。収穫の喜び感謝の気持ちを持ちながら、サラダ、野菜炒めなどを作り、みんなで美味しく頂きました。土づくりから水やり、収穫まで行うことで、野菜の生長する過程を観察し、野菜が苦手なお友達も食べられるようになる子もいました。</p>	  

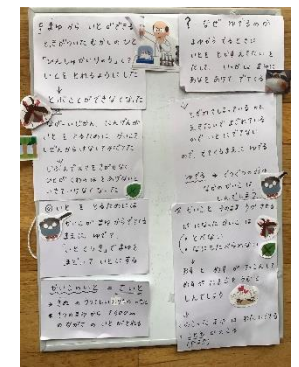
「カブト虫・蚕の世話」

園児のご家庭から頂いたカブト虫の幼虫が蛹になり、だんだん角が出てくる様子に子どもたちは興味津々で、みんなで成虫になる日を待ちました。残念ながら、蛹のまま成虫にならない個体もあり、みんなでお墓を作り、命の大切さを学びました。

蚕の幼虫が繭になり始め、厚紙を使って蚕のお家を作って成長の過程を観察します。蚕のお世話は、主に年中長児が行いますが、『繭を作る様子から蚕蛾になる過程』を全園児に興味をもってもらう為、玄関に蚕の成長のパネルとともに置いておきました。すると、「蚕さん、今日はどうなったかな?」と毎日変化を気にしている姿も多くみられました。観察するのと並行して、命の選択についての話し合いが始まります。繭を茹でて生糸を紡ぐか、茹でずに蚕蛾にして卵を産ませるか、話し合いは何度も繰り返され、小さな命について一人一人が真剣に向き合い考えます。様々な意見が飛び交う中、今年は、全ての繭を蚕蛾にするという事になりました。

夏

全ての繭が蚕蛾になり交尾の様子も観察させます。人間の遺伝子操作により蚕蛾は口がなく、何も食べずに、卵を産む役目を果たすと亡くなってしまう事を知ると、「かわいそう」「卵を産んでくれてありがとう」などの様々な感情を抱き、命について考えるととても貴重な経験になっています。産まれた卵は、幼稚園の冷蔵庫で来年の春まで眠ることを伝え、命のサイクルについても学びの時となっています。



「その他の生き物の世話」

毎年、メダカ、おたまじゃくし、たにし、など様々な生き物飼育を行いますが、今年は、園児が持ち込んだザリガニも新たに加わり、その世話を行いました。ザリガニが脱皮する様子や、なかには、抱卵している個体もあって、孵化する様子もしっかりと見守り、教師ともども、大変興味深く観察しました。常に多様な生き物とともに生活することで、小さな変化に気付き、小さな生き物にも命を感じ、大切にしようとする心が育っていると感じます。

秋

「秋蒔き」

冬野菜を育てるために、春と同じく土づくりから行います。今年もクラスで話し合った結果、ラディッシュ、かぶ、ほうれん草、人参を育てることに決まり、プランターに種を蒔きました。水やりの時に、芽が出てきた様子など、変化を伝えあい生長を観察し、収穫を楽しみにしていました。



冬

《収穫からクッキングへ》

寒い冬空のもと、収穫した野菜を水で綺麗に洗いました。年少さんも興味をもって見に来てお兄さんたちと一緒に収穫のお手伝いをしました。

園庭に臨時のかまどを用意し、豚汁作りをしました。今年は、風が少し冷たく、かまどの横では、「風が冷たいけど、あったかいね」「僕にも見せて！」などと興味深く火が燃える様子を見学していました。火の危険性も学びながら、とても貴重な経験になりました。また、収穫したお野菜にこんにゃく、油揚げ、豚肉、などを加え、お手伝いのお母様方が料理する様子をクラスごとに見学しました。お野菜苦手なお友達も野菜嫌いが克服できたり、おかわりする子どもたちもいて、大盛況でした。

